

かぐにんアスト

1 よんで こたえましょう。

[50~60]

おじさんは、とてもりっぱな
かやをもつていました。くろくて
ほそくて、ぴかぴかひかつたつえ
のようでした。

おじさんは、でかけるときはい
つも、かやをもつてでかけました。
すこしくらいの雨は、ぬれたまま
あるきました。かやがぬれるから
です。

もうすこしたくさん雨がふ
ると、雨やどりして、雨がやむまで
まちました。かやがぬれるからです。

かがりだいで、はしつ
いきました。かや
がぬれるからです。

「ちょっとしつれい、そこまで
これでくだらない。」
と、しらない人のかやにはい
ました。かやが 。

もつともつと大ぶりの
どこへもでかけないで、うちの日ひ
にいました。そして、ひどいかぜ
見て、かやがひっくりかえった人を
見て、「ああよかつた。だいじなかやが



15

20

25

こわれたかも しれない。」

(1) といいました。
(佐野 洋子「おじさんのかや」著)

(1) おじさんのかやとは、どんな
かやでしょう。
「つか(14~15)

くろくて 、
ひかつた

(2) つえのよくなりっぱなかや
おじさんはつぎのときはどう
したでしょう。
「つか(28~29)

① すこしくらいの雨のとき。
ぬれたまま

。

② いそぐとき。
かやをしつかりだいで、

。

③ 雨がやまないとき。
しらない人の に

。

(3) にはどんなことばが
入るでしょう。
(8~9)

からです。
「からめんべつづく」

2

よんでも こたえましょう。

たおれた 木から、ピヨンと ジャンプして じめんに おりた ひめねずみの 子は、木の 実に、ゆっくりちがづきます。

はなで においを かいで たしかめてから、虫の ついて いな 実を えらび、口で くわえて つまみあげます。

実を りょうで ささえ、くるくると まわして、しつかりと くわえます。そして、ものかげなどの あんぜんな しょくじ場に はこんで たべます。

ひめねずみは、するどい 前歯で、じょうぶな 皮を さして はがしたり、かたい からに あなを あけたり して、なかみを たべます。
今泉 吉晴『がんばれひめねずみ』より

(1) ひめねずみは どんな 実を えらんで たべるでしょう。

実。

(2) ひめねずみは 木の 実を どのように はなげてしまう。

—つ4(8てん)

くみ

ばんごう

名まえ

くみ	ばんごう	名まえ	ヒектン	なにも かかない こと。
----	------	-----	-------	--------------

で しつかりと

はなげ。

(3) ひめねずみは どこで 木の 実を たべるでしょう。

など

しょくじ場

(4) ひめねずみは 木の 実の なかみを どのように して たべるでしょう。

—つ4(12てん)

・前歯で、

を あける。

3

つきの まちがつて いる こころを 正しく かきなおし ましょう。



ミシン



アイク



テーズ

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

(11)

(12)

(13)

(14)

(15)

(16)

(17)

(18)

(19)

(20)

(21)

(22)

(23)

(24)

(25)

(26)

(27)

(28)

(29)

(30)

(31)

(32)

(33)

(34)

(35)

(36)

(37)

(38)

(39)

(40)

(41)

(42)

(43)

(44)

(45)

(46)

(47)

(48)

(49)

(50)

(51)

(52)

(53)

(54)

(55)

(56)

(57)

(58)

(59)

(60)

(61)

(62)

(63)

(64)

(65)

(66)

(67)

(68)

(69)

(70)

(71)

(72)

(73)

(74)

(75)

(76)

(77)

(78)

(79)

(80)

(81)

(82)

(83)

(84)

(85)

(86)

(87)

(88)

(89)

(90)

(91)

(92)

(93)

(94)

(95)

(96)

(97)

(98)

(99)

(100)

(101)

(102)

(103)

(104)

(105)

(106)

(107)

(108)

(109)

(110)

(111)

(112)

(113)

(114)

(115)

(116)

(117)

(118)

(119)

(120)

(121)

(122)

(123)

(124)

(125)

(126)

(127)

(128)

(129)

(130)

(131)

(132)

(133)

(134)

(135)

(136)

(137)

(138)

(139)

(140)

(141)

(142)

(143)

(144)

(145)

(146)

(147)

(148)

(149)

(150)

(151)

(152)

(153)

(154)

(155)

(156)

(157)

(158)

(159)

(160)

(161)

(162)

(163)

(164)

(165)

(166)

(167)

(168)

(169)

(170)

(171)

(172)

(173)

(174)

(175)

(176)

(177)

(178)

(179)

(180)

(181)

(182)

(183)

(184)

(185)

(186)

(187)

(188)

(189)

(190)

(191)

(192)

(193)

(194)

(195)

(196)

(197)

(198)

(199)

(200)

(201)

(202)

(203)

(204)

(205)

(206)

(207)

(208)

(209)

(210)

(211)

(212)

(213)

(214)

(215)

(216)

(217)

(218)

(219)

(220)

(221)

(222)

(223)

(224)

(225)

(226)

(227)

(228)

(229)

(230)

(231)

(232)

(233)

(234)

(235)

(236)

(237)

(238)

(239)

(240)

(241)

(242)

(243)

(244)

(245)

(246)

(247)

(248)

(249)

(250)

(251)

(252)

(253)

(254)

(255)

(256)

(257)

(258)

(259)

(260)

(261)

(262)

(263)

(264)

(265)

(266)

(267)

(268)

(269)

(270)

二たえ

[1] かくにんテスト

- (1) (くろくて) はそくて ()
 (2) びかびか (ひかつた つえの ような りっぱな かき)
 ① (ねれたまま) ある
 キました (。)
 ② (かさを しつかり だいて) はしつていき
 ました! (。)
 ③ (しらない 人の) か
 ゃ(に) はいりました (。)
- (2) (1) (3)
 虫のついでいい (実)
 口 (で しつかりと) くわ
 えて (はいが)
 ものかげ (など) あんぜ
 ん (な しょくじ場で たべる。)
 (前歯で) 皮 (かわ) (を)
 やいて (はがす。
 (からに) あな (を あけ)
- (3) (2) (1) る。
 チ マイクス

[1]

(1) (くろくて) はそくて ()
 びかびか (ひかつた つえの ような りっぱな かき)
 おじさんのかさは、「でかけるときはいつももつて
 でかけたくなるくらい」「りっぱ」だったのです。
 ①「すこしくらいの雨は」、②「いそぐときは」、③「雨が
 やまないときは」ということはにちゅうもくしまします。
 おじさんは、「でかけるときはいつもかさをもつて
 でかけていたのに、雨がふってきても、かさをやそう
 とはしませんでしたね。とてもだいじなかさだったで、
 おじさんはねらすのがいやだったのです。

てひき

[2]

[2]

(1) (2) (3)
 「木の実」ということには「まちがい」です。
 「虫のついでいい実」を口でくわえてはいがの
 いひめねずみが、木の実のがみをたべるトコロは
 いこのまどまりにかけてあります。

[3]

[3]

(1) (2)
 「ツ」を「シ」に ながしまします。
 「ア」を「マ」に ながしまします。
 「テ」を「チ」に ながしまします。